

碾茶・玉露の生産景観に関する調査

上杉 和央

1. 調査概要

現在、京都府では宇治茶の生産景観について、世界文化遺産登録を目指した調査を進めている。今年度、この一環として、碾茶・玉露に関する生産景観の比較研究を、京都府から受託研究として請け負った。具体的には、京都府以外の主要産地である愛知県西尾市、静岡県藤枝市・川根本町、福岡県八女市に赴き、現在の生産景観や宇治との歴史的関連についての調査を実施し、日本茶の生産景観全体についての基礎的理解と、その中での宇治茶の生産景観の特徴を探るというものである。

茶の生産地のなかには斜面地が利用されている場合も多い。そのような自然条件と生産条件の関係性、またその比較をおこなうためにも、生産景観をある程度広域にとらえる視点、また高低差を理解することが不可欠である。そのため、本調査においては無人航空機（ドローン）による俯瞰撮影を実施し、地域ごとの特徴をつかむことにした。

調査の結果、各地ともに茶の伝播については古い伝承を備えているものの、覆下茶園については19-20世紀に導入されたことが明らかとなった。茶の生産場所については斜面地や河川沿いといったように、宇治の生産地と同じような傾向を持つが、覆いの仕方などに地域の特徴がみられた。また荒茶にする茶工場が個人所有であったか共同工場であったかといった点については、それ以前の地域の状況が反映していることがうかがえた。

本調査の成果については、京都府に報告書を提出した。

2. 調査体制

3地区の調査日と調査者は次の通りである。なお、本調査にあたっては各地域の茶業に従事する多くの方々、地方自治体の方々、また専門家の方々にお世話になった。

愛知県西尾市

調査日：平成27年8月9-11日

調査者：上杉和央・宮嶋健太（3回生）・橋本素子（光華女子大学非常勤）・辰己義人（京都府農林水産部農政課）

静岡県藤枝市・川根本町

調査日：平成27年9月6-8日

調査者：上杉和央・近藤史昭（3回生）・藤井孝夫（京都府農林水産技術センター生物資源研究センター）・辰己義人（京都府農林水産部農政課）

福岡県八女市

調査日：平成27年11月16-18日

調査者：上杉和央・宮嶋健太（3回生）・橋本素子（光華女子大学非常勤）・藤井孝夫（京都府農林水産技術センター生物資源研究センター）・高津幸介（京都府農林水産部農政課）



写真1 愛知県西尾市の覆下茶園



写真2 愛知県西尾市の聞き取り調査風景



写真3 静岡県藤枝市岡部町の覆下茶園



写真4 静岡県川根本町の茶工場建物



写真5 福岡県八女市星野村の覆下茶園



写真6 霊巖寺（八女茶発祥地の伝承を持つ）